ひだまり

2025 Vol. 16

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌

令和7年3月1日　第16号

愛称「ひだまり」は，教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり，皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

もくじ

R7年度入学生からの学校教育課程での学び ― 5コースから3コースへ ―（学校教育課程主任）　1

後援会長あいさつ，就職・進学が決まった学生からメッセージ　2・3

教育文化学部の就職支援と学生の就職状況について（キャリア委員長），就職内定状況　4

就職情報室を利用して，教育文化学部同窓会「旭水会」会長あいさつ　5

大学でこその「学修」を！（教務学生委員長）／学部長あいさつ／大学・学部関係行事予定　6

R７年度入学生からの学校教育課程での学び
― ５コースから３コースへ ―

現在，学校教育課程には，教育実践コース，英語教育コース，理数教育コース，特別支援教育コース，こども発達コース，の５つのコースがあります。令和７年度入学生からは３コースへと生まれ変わります。どのように変わるかといいますと，教育実践コース，英語教育コースそして理数教育コースが１つの初等中等教育コースになります。特別支援教育コース，こども発達コースは，これまでと変更はありません。３コースに改編するとともにカリキュラムも改編しました。

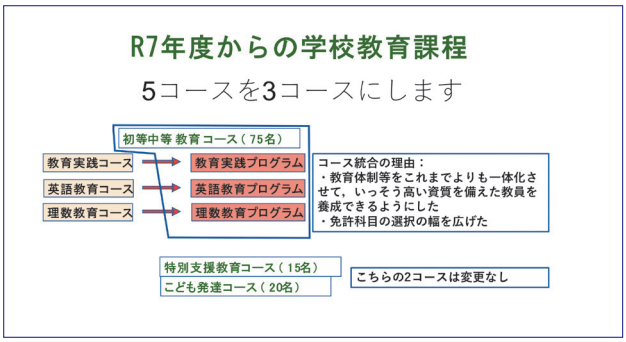
初等中等教育コースでは，１年次の前期の終わりに，学生の希望で９つの免許教科を自由に選択できるようになります（各教科，人数制限なし）。また，学校教育課程すべてにおいて，中学校・高等学校の複数教科の免許を取得することも可能なカリキュラムになり，科目選択の自由度があがります。もちろん幼稚園・小学校・特別支援教育の教員免許も取得できますので，学校教育課程で学ぶと，幼・小・中・高・特別支援の連携がますます重要になる教育現場で活躍できます。

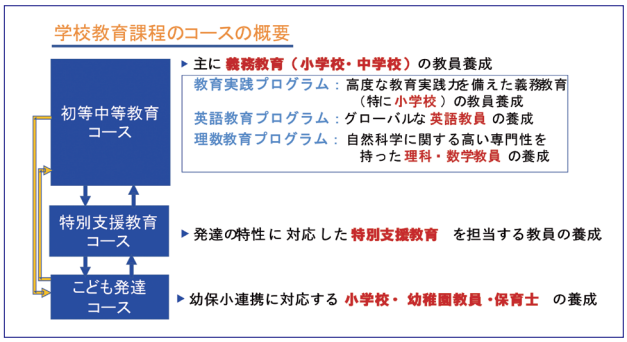
なぜこのように改編したかといいますと，価値観，人生観および職業観が多様化し急激な変化を遂げていく社会において，次世代を担う子どもたちを教育するためには，学部時代に多様な価値観，人生観および職業観に触れる必要があるからです。人工知能が急速に発展していますが，教師という職業は，人工知能に取って代わられにくい職業の代表です。なぜかといいますと，人間形成に直接かかわる仕事だからです。ヒトは人によって人になっていくのだと思います。

インターネットコオロギと名付け，研究しているのが金沢工業大学の長尾隆司先生です。インターネットコオロギとは皮肉を込めてつけた名称だそうで，透明な容器で卵から隔離飼育したコオロギです。隔離飼育しているコオロギどうしのケースを隣り合わせにして飼育すると，隣のコオロギの姿が見え，声が聞こえるものの，触ることができない状況となります。その結果，そのコオロギたちは脳内の神経伝達物質のバランスがくずれ，とても狂暴になります。この飼育状況は人間が行うインターネットと同じなので，長尾先生は現代インターネット社会に警鐘をならしているのです。インターネットコオロギには続きがあります。隔離飼育で狂暴になったコオロギを集団で飼育しなおすと脳内の神経伝達物質のバランスが正常化し，狂暴性がなくなった，というのです。

初等中等教育コース，特別支援教育コース，こども発達コース，のいずれで学んでも，教員としての知識・能力・実践力はもちろん，多様な価値観そして豊かな人間性を備えた教員になることができると思いますので，ぜひうちの学校教育課程で学んでください。

学校教育課程主任　石井　照久





REAL × EYES

教育文化学部後援会　会長　小林　　弥

教職員，会員の皆様におかれましては，日頃から後援会活動にご理解，ご協力を賜り，感謝至極に存じます。また，卒業生の就職内定は上々であると伺っております。就職情報室の設置を支援している後援会として，とても喜ばしいことと思っております。

世の中が移り変わるスピードは，ますます加速度を増しています。特に情報技術分野での，AI関連技術の向上と応用はめざましく，それによる弊害が指摘されているのは周知の事実であります。自分の目の前にある文字情報，写真，動画などの真偽のほどを確かめるには，やはり幅広い知識や深い見識，実体験で五感を通して得られたものの積み重ねが大切かと思います。様々な活動に参加・挑戦し，見聞を広めていってほしいと思います。

この春に卒業される学生の皆さんは，分野は違えど，連綿と続く「学び」の歴史を紡いでいく一人であります。これまで多くの知識を身に付け，先人の経験から学び，追究することで，研究者の熱い志すら感じることがあったかもしれません。卒業は，学ぶことからの卒業ではなく，次のステップへの区切りです。どうか，これからも更に自分を高めるための取組を続けていってほしいと願っています。

最後に，一保護者の視点から申し上げます。人生の先輩と言うのもおこがましいのですが，そんな私達Old Types（失礼ですが）では考えも及ばないような，あっと驚くようなアイデアや取組，ブレイクスルーを，卒業生の皆様のようなNew Typesに期待しています。新しい環境の中で力を発揮できる力を十二分に身に付け，準備はできているはずです。これからの皆様の，益々のご活躍，ご発展を祈念しております。

就職・進学が決まった学生からメッセージ

令和７年３月卒業の学生４名からメッセージをいただきました。保護者の方，学生のみなさんに参考になる内容です。

教員採用試験合格への道のり

教育文化学部　学校教育課程
教育実践コース　渡辺　新結

私は秋田県の教員採用試験を受験し，中学校の英語教員として内定をいただきました。大学受験では勉強不足で後期にギリギリ合格した経験があり，そのため教員採用試験だけは「これが人生で最後の大きな勉強」と心に決めて，かなり気合を入れて取り組みました。今回は，その経験を通じて私が試験合格のために実践したことをご紹介します。

私が伝えたいポイントは，大きく分けて３つです。まず１つ目は「情報収集」です。何から始めるべきか分からなかった私は，先生や合格した先輩から様々な情報を集めました。その中でも，大学の「就職情報室」は情報の宝庫で，ほぼ毎日通いました。ここでは過去問や参考書，自治体ごとの出題傾向などが手に入ります。また，３年生の時から「自主ゼミ」に参加し，自分が受験する自治体の受験日や求められる教師像などの情報を得ることができました。

２つ目は「頭のいい友達と一緒に勉強すること」です。結局本格的に勉強し始めたのは本番の２か月前，５月下旬でした。それまで情報収集や参考書の購入で満足してしまい，なかなか実行に移せませんでした。そのため，同じ自治体を受ける友達と一緒に勉強することで，効率的な勉強法や時間の使い方を学び，友達に感化されながら，毎日12時間以上勉強し，巻き返しました。

３つ目は「学校で準備してもらっている機会を大いに活用すること」です。一次試験が終わった後の二次試験対策では，センターの先生方が特に手厚くサポートしてくださいます。特に模擬授業の準備では，先生や同じグループの友達のアドバイスがなければ，合格することはできなかったと思います。秋田大学では，他の大学に比べて手厚いサポートが沢山あるので，その機会を最大限に活用してほしいと思います。

最後になりますが，これまで指導してくださった先生方，就職情報室の皆さん，一緒に頑張った友達，そして支えてくれた家族に心から感謝しています。これから教員を目指す皆さんの未来も明るいものになることを心より願っています。

公務員試験を振り返って

教育文化学部　地域文化学科
地域社会コース　髙橋　優哉

３年生の６月頃から生協の公務員講座を受講し，約一年間試験対策を行いました。試験期間中は様々な官公庁を受験しましたが，最終的には自分の第一志望としていた秋田県庁から内定を頂くことができました。この一年間は大変なことも多かったですが，目標に向かって努力を続けたことで多くの学びを得ることができました。

試験対策を始めた頃は，試験範囲の広さに圧倒され，どこから手をつけるべきか分からず戸惑うこともありました。しかし，公務員講座の教材や講師のアドバイ

スを参考に，まずは苦手分野を洗い出し，計画的に学習を進めることを心がけました。特に，数的処理や法律系科目は毎日少しずつ取り組むことで，徐々に力をつけることができました。また，模試を活用して実力を確認し，弱点を見つけて補強することを繰り返しました。

試験対策中で特に大変だったのは，長期間にわたる勉強を続ける中でのモチベーションの維持でした。合格が見えず不安になることもありましたが，同じ目標を持つ仲間と励まし合ったり，時には息抜きをしたりすることで，なんとか乗り越えられたと感じています。

試験を通じて，公務員としての役割や責任についても深く考えるようになりました。秋田県庁を志望した理由は，地元の発展に直接携わりたいという思いからでした。その目標を持ち続けることが，試験勉強に対する原動力になったのだと思います。そして，内定を頂いたときには，この努力が報われたという達成感とともに，新たな目標に向けて進む決意が固まりました。

この一年間で得たものは，試験に合格するための知識だけではありません。自分を律する力，粘り強く努力する姿勢，そして周囲の人々への感謝の気持ちです。これらは，社会人として働き始めた後も必ず活きてくると確信しています。この経験を糧にし，これからの人生でも成長を続けていきたいと思います。

就職活動を振り返って

教育文化学部　地域文化学科
地域社会コース　清水　舞子

私は，昨年の３月から各企業の選考に臨み，６月に第一志望の企業から内定をいただきました。自身の活動を振り返ってみると，「毎日ES作成や面接に追われる」「不採用通知ばかりが届く」といった，一般的にイメージされる忙しくつらい就職活動ではありませんでした。というのも，私は志望する業界や希望勤務地が明確に決まっており，その条件に合う少数の企業に絞って活動していたからです。民間企業の就職活動は志望する企業の規模や業界，選考を受ける企業の数によってスタイルも様々だと思うので，一つの事例として参考にしていただければと思います。

受ける企業を厳選していた分，各企業の選考準備には十分な時間を割き，徹底して取り組むことを意識していました。特に，企業説明会などのイベントには積極的に参加し，中でも志望度の高い企業については説明会が開催されるたびに可能な限り足を運びました。説明会に参加して企業への理解を深めておくと，志望企業を決めやすくなるだけでなく，後々の面接などにも非常に役立ちます。また，企業の方に熱意も伝わると思います。少しでも気になる企業があれば，説明会やインターンシップといったチャンスは見逃さず，参加してみることをおすすめします。

他にやって良かったと思うのは，ES作成や面接練習で他の人にサポートをお願いしたことです。一人で悩むよりも効率良く進みますし，客観的な意見をもらって修正，練習することで，自信をもって選考に臨むことができます。悩んだ時には，秋田大学の就職情報室や就職推進担当の職員の方々，身近な先生方などに相談してみてください。きっと良いヒントがもらえるはずです。

長々と書きましたが，最も重要なのは，悔いのないように就職活動をやり切ることだと思います。納得のいくまで準備を重ね，選考でも全力を尽くせば，結果は後からついてきます。

在学生の皆さんの就職活動が実りあるものとなるよう，心から応援しています。

専門職の高みを目指して

教育文化学部　学校教育課程
特別支援教育コース　安達　健登

私はこの度，秋田県の教員採用試験に合格し，小学校の教員になることが決まりました。試験勉強中は，本当に心が折れそうになりましたが，そんな私を支えてくれた家族や友人，そして先生方のおかげで，最後までやり遂げることができました。

教員という仕事は，私にとって小さい頃からの夢でした。学生時代の恩師のように，教員として子どもたちと関わることが出来ると思うと，嬉しさと責任感を感じます。しかしながら，私はすぐに働く道ではなく，秋田県の特別措置を利用して，２年間の採用猶予を貰いながら，秋田大学大学院教育学研究科に進学することを決意しました。

その理由は，大学３年生の頃に体験した公立実習にあります。実習を受けて，発達障害のある子どもや，個別の支援を必要とする子どもが沢山いることを知りました。この現状に対応し，子どもたちが安心して学べる場所を作るためには，もっと特別支援教育の専門的な知識が必要だと痛感したのです。

教職大学院では，時代の変化に対応できるような教育について学びたいと思っています。また，一人ひとりの子どもたちの個性や学び方を大切にし，安心して学べる環境を作れるような教員になりたいと考えています。そして秋田県の教育に貢献できるような教員になれるよう，これから２年間教職大学院で学びを深めていきたいです。

来年度の教員採用試験からは，体系が大きく変わり，秋田県でも時事問題の廃止や，集団面接の廃止，大学３年生チャレンジ選考など，様々な変更点があります。従来の形式とは変わり，初めてのことばかりで，心が折れそうになることもあると思いますが，自分の夢に向かって，最後まで諦めず頑張ってください！陰ながら応援しています！

最後に，これまで支えてくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

教育文化学部の就職支援と学生の就職状況について

キャリア委員長　林　良雄

本学部学生への就職支援については，本学部の教員で組織しているキャリア委員会と大学の学生支援・就職課とが協力して行っています。学部学生の就職先は大まかに分けて教員，公務員，一般企業となっているため，それぞれの就職について対応した支援を行っています。以下にその活動について説明いたします。

教員については通常の授業で学ぶ内容を十分身につけていることが最低限必要ですが，それ以上に，教員になる熱意や教員としてやっていけるかが面接や模擬授業等で確かめられます。そのため，授業外において，次のような取り組みを行っています。

・スタージュ（小論文，教養，実技対策やOB・OG教員，合格した先輩に話を聞く会を催してます）
・教職自主ゼミ（現在の教育課題についての解説や面接指導を行います）
・オータムセミナー（３年生の秋にスタージュ参加者が集まり，一日かけて，教員としての心得や先輩の模擬授業を見る，先輩の話を聞くなどして教員になるモチベーションを高めていきます）
・スプリングセミナー（４年生の春にスタージュ参加者が集まり，一日かけて，模擬面接など教員採用試験に向かうための最終チェックと士気を高めていきます）

これらの取り組みでは，本学の教員以外にベテランの元教員の方々にもご協力をいただき，そのノウハウを伝えていただいています。

公務員については，座学での試験勉強は授業で培った知識や自学で行っていただくことになります。また，一般企業については，全学の学生支援・就職課による就職セミナー，業界研究セミナー（インターンシップ，就職のスケジュールや気をつける点，様々な業界を知るための説明会）が行われています。これに加えて，公務員，企業就職では共通するところも多いため，合同で次のような本学部独自の支援を行っています。

・就活ガイダンス（学部生に向けてインターンシップ，自己分析と自己PR，エントリーシートの書き方等の説明会をキャリア委員会が企画，実施しています。）
・先輩と語る会（内定した先輩の話を直接聞く機会を提供しています）
・面接練習，エントリーシートの添削（学生支援・就職課や学部の教員が随時個別対応します）

これらキャリア委員会を中心とした多方面にわたる支援に加え，これを強力にサポートし，また，就職活動に関する悩み事を学生に寄り添って聞いてくれる「就職情報室」が教育文化学部にはあります。ここには二人の職員が配置され，親身になっていろんな相談に乗ってくれています。就活学生のオアシスになっていると言える場所です。この就職情報室の運営費の一部は後援会費でまかなわれています。保護者の皆様には感謝申し上げます。学生たちが更に気軽に利用できる環境をつくって参りますので，お子様にも積極的に利用するよう，お話しいただけると幸いです。

次に2024年度の就職状況についてご説明いたします。

まず教員ですが，秋田県では2024年度も引き続き小中学校ともに採用試験の志願倍率が低く，特に小学校では1.0倍でした。全国でも志願者の減少に対して，一部試験科目の廃止など，負担軽減が進められています。ただ，倍率が低くなったから，試験が少なくなったからといって簡単に合格するということではありません。事実，受験した学生の中でも残念な結果となった人もいます。しっかりと教員となる意思を固め，様々な対策をしておかなければやはり合格できません。また，対策せず教員になってしまった場合には，教員になったときの心得がなく，学級経営に行き詰まり，教壇に立つことが困難になってしまうこともあるだろうと思われます。倍率に甘んじず，教員採用試験対策を通して教員としての資質を高めておくことが必要です。本学部で行っている教職自主ゼミ等は教員になったすぐあとでも，困ることの無い基礎力をつける内容になっています。

今後，教員採用試験日の早期化，３年生受験の広がりもあり，２,３年での活動が重要となってきていますので本学部の支援についてもこれに対応していく予定です。

公務員については，地域文化学科の学生30名余りが合格しています。2023年度と比べるとほぼ同数ですが，この１,２年，公務員の合格者は少なくなっています。企業の採用活動が活発であること，また採用活動の早期化で，早く就職を決めたいと思っている学生が多いことなどが考えられます。なお最近の公務員採用試験の傾向は面接重視となっています。１次試験がSPIと自己PR，２次試験以降面接試験で，細かい知識より，人物重視の採用試験が多くなりつつあります。例えば「政策立案のできる創造的な能力のある人」,「チャレンジ精神を持った人」などが求められ,「安定している」や「なんとなく」でなりたいという人は合格しにくくなっています。

企業の内定者は地域文化学科で50名となり，大変好調です。採用活動は昨年度よりさらに早期化しています。４年生４月にはすでにかなりの学生が内定をもらっている状況です。特に近年インターンシップの活用が進んでいます。３年生夏にインターンシップを開催し，その出席者には先行採用枠を設けるなどのところもあります。さらに，インターンシップでの学生の情報を活用した採用が公式に認められるようになり，インターンシップ重視の傾向が強まっています。そのため，３年生の夏にインターンシップに行くことが重要となり，２年生からその準備が必要となります。

キャリア委員会では就職環境の変化に合わせた学生支援活動を行っております。後援会の皆様にはご子息のより良い就職のために，後援会費等へのご支援賜りますようお願い申し上げます。

就職内定状況

２月末現在

学部・課程等名		卒業予定者数	進学予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他
				合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	
教育文化学部	学校教育課程	120	15	99	36	63	99	36	63	100.0%	100.0%	100.0%	6
	地域文化学科	99	6	90	30	60	89	30	59	98.9%	100.0%	98.3%	3
	小　計	219	21	189	66	123	188	66	122	99.5%	100.0%	99.2%	9
教育学研究科		29	0	29	18	11	28	18	10	96.6%	100.0%	90.9%	0
合　計		248	21	218	84	134	216	84	132	99.1%	100.0%	98.5%	9

就職情報室を利用して

教育文化学部　学校教育課程
教育実践コース３年次　梅嵜　結奈

私は，教員採用試験に向けて何か動こうと思い３年次の10月頃に初めて就職情報室を利用しました。県外での受験を考えていたこともあり，自分から情報を取りに行かなければならず困っていましたが，職員の方が受験勉強の仕方や過去問の揃え方などを親身になって教えてくださいました。その中でも特に，同じ自治体を受験した先輩に直接お話を聞ける機会を設けてくださったことが非常にありがたかったです。

就活情報室には，就活の情報，教員採用試験の過去問や資料，過去に受験した先輩方の報告書などが非常に充実しているので，ぜひ多くの学生に利用してみてほしいと思います。

最後に，後援会の皆様におかれましては，日頃より多大なるご支援をいただき誠に感謝申し上げます。これからも，学業や就職活動など自己実現を目指して取り組んでまいります。今後もご支援のほど，よろしくお願い申し上げます。

教育文化学部　地域文化学科
地域社会コース３年次　宮川　颯太

就職活動に関して漠然とした不安を抱えるようになったのは，３年生になった４月です。私はとりあえず行動せねばと思い，就職情報室に駆け込みました。

就職情報室では，過去の先輩方の就職活動の記録を見ることができたり内定を持つ先輩とお話しする機会を用意していただくことができたりと，就職活動を始める上で必要な情報を得ることができました。そして私が特に感じたことは，職員の方々の丁寧な対応がとても魅力的だということです。就職活動をどう進めたらいいか分からなかったとき，優しく笑顔で対応してくださり不安が和らいだことを覚えています。ささいなことでも職員のお二人とお話することで気分転換にもなると思うので，気軽に利用してみてください。

就職情報室は，教育文化学部３号館１階にあります。学生のみなさん，是非お気軽にご利用ください。

最後に，後援会の皆さまにおかれましては，日頃より多くのご支援をいただき心より感謝申し上げます。お陰様で私たち学生は日々充実した活動を続けることができています。今後もご支援のほど，よろしくお願い申し上げます。

教育文化学部同窓会『旭水会』会員との交流と，勇躍を期待して

旭水会会長　佐々田 亨三

2024年５月から，千葉　昭会長の後任として務めさせて頂いております。

教育文化学部同窓会『旭水会』の会員は現在７千人を超え，県内に10，東京と千葉を加え12支部があり，本部事務局は教育文化学部の就職相談室の並びにあります。同窓『旭水会』は「会員相互の親睦，母校の発展と教育・文化・地域の振興に貢献する」，正に学校教育課程，地域文化学科，大学院を卒業してご活躍される皆さんの意を体した目的となっております。『旭水会』として，皆さんには，体育・文化活動への助成や海外留学・海外研修基金の支援，学生の生活支援のため寄付金の提供等を実施してきております。実は，私は1967年，学芸学部を卒業し，教育学部教育専攻科を修了，その後は中学校教員や小学校長，義務教育課長，教育次長，県立博物館長を経て，由利本荘市教育長を歴任し2022年３月退任しました。この間，職場には必ず旭水会の先輩，同僚，後輩がおられました。今，感謝していることは，周りの同窓の方々に常に叱咤激励・支えて頂いたことです。関係機関にも同窓の方がおられ，生徒指導や部活動等で思い悩んでいる時など，PTA，警察，医療，報道等の方々に温かいご助言，ご支援を頂きました。未熟で至らなかった自分を温かく見守り育ててくれたのです。私も年々要職を担うようになるに従い，同窓の皆さんと接し，多くの御指導を頂きました。幸いなことに，同窓の方々は県庁，市役所，報道通信，警察，医療，金融保険，各種会社・企業関係等々驚くほど多方面な職業に就かれていて，リーダーとして力強く牽引しておられます。同窓の方々を是非先輩として頼りにされて，自信を持って勇躍してください。『旭水会』として，皆様のご活躍を祈念致しますとともに，年１回発行の同窓会誌「旭水」を心の糧とされ，また，主催事業に参加されることをご期待申し上げます。

大学でこその「学修」を！

教務学生委員長　篠原　秀一

教務学生委員会は，日々，学生の皆さんの学修補助に努めています。今回は，その体験から，個人的見解ながら少しだけ，学生の皆さんと後援会の皆様に申し上げます。

大学での生活は，授業以外のサークル活動あるいはボランティア活動なども重要であり，楽しいとは思いますが，大学生たる所以の基本は授業受講です。入学してしばらくすると，授業に出てこなくなる学生さんもいますが，これはもったいない。入学前の初心として，これを学びたいというものがあったはずです。どうか，初心を大切に，大学でしか学べないものを学んで欲しいです。無論，初心とは異なる領域に興味が出て，それを専門に学ぶのも良いです。当初のあてが外れても，好奇心のアンテナを最初は広く張り，自分にとって面白い必要な「学術的栄養」が１領域とは限らないと気付いて欲しいです。

大学でしか学べないものの第１は，講義よりも演習，実習，実験です。野外実習などは自己負担で，計画的に資金を貯めないといけないかも知れませんが，それすらも日常の楽しみにしてしまいましょう。いわゆる社会人になると，大学時代のようにあちこちに行くことも，あれこれ学ぶことも，そう自由にはできません。身近に新たな友人・知人を得るのと同じように，遠くへの旅でも小さな散歩でも，見知らぬ風土・時空間を五官も駆使して知ることができますし，他地との人々とも雑談を楽しみましょう。きっと，学生皆さんの人間的な器量を大きく深めることができます。専門領域の選択でも，友人知人と同じにこだわる必要はありません。何よりも自分の「意欲･好奇心」を大切にしてください。

学術的基礎は，大学時代の「学修」で養えます。プレゼンテーションも重要ですが，自分の専門領域での（必要があれば現地での学術的地域調査もふまえた，あるいは学術的文献・資料に基づいた）「地道で客観的な事実把握と考察」に関する実質的･具体的な学識･技能も身につけてください。そして，苦しいときには遠慮なく，周囲に，該当機関に相談してください。あるいは苦しい人を助けて上げてください。大学生としての生活は，人を支える側に転じる社会人としての生活の予行演習でもあります。

2023年度野外調査実習：「伊良部島から伊良部大橋・宮古島を望む」

大学での学びの意義

教育文化学部長　大橋　純一

栃木県那須町にある「那須どうぶつ王国」で，動物の宣材写真を用いた，なかなかに“じわる”グッズが販売されている。たとえば正面を向いたカピバラが「明日できることは明日やる」と大真面目に語り，木にぶら下がったナマケモノが（とてもそうは思えないが）「あとで本気出す」とうそぶいている。これらはもちろん，愛くるしい動物たちにウイットを語らせる緻密な販売戦略に他ならないが，我々人間にも教えられるところが少なくないように思う。まずひとつは，「人生そうあくせくせず，肩の力を抜いていこうよ」という，物の見方，生き方の指針を言っているように思えるし，またひとつは，「万事視点を変えればその逆もまた真なり」といった，これまたせわしない現代人に向けた“気づき”の促しのように受け取れる。この観点に立てば，ある人，ある状況，切り口によっては「今日やる（いま本気出す）」のも正解，「明日やる（あとで本気出す）」のも正解ということなのだろう。

卒業・修了を迎える皆さんは，大学での授業や人づきあいを通してさまざまな素養を身につけてきたことと思う。しかしその学びの意義・本質は，つきつめれば，上記の動物たちが暗に語っているようなこと，つまりは状況に応じた最適解を選ぶ柔軟さと，時に視点を変えて物事を捉えることの大切さを知ることだったのではないだろうか。これから飛び込む社会は，まさにそうした力が試される実践場に違いない。

周知のとおり，現代社会には予測不能な出来事や多様な価値観が溢れている。そうした中で，皆さんが秋田大学で培った学びをもとに，どのような環境でも力を発揮し，それぞれの道で輝けることを願っている。

大学・学部関係行事予定（令和7年3月～）

3月	22日	学位記授与式
4月	1日	前期開始
4月	3日	春季休業終了
4月	4日	在学生ガイダンス
4月	5日	入学式
4月	7日	新入生ガイダンス
4月	8日	前期・第1クォーター授業開始
6月	1日	創立記念日
6月	10日	第2クォーター授業開始
8月	8日	夏季休業開始
9月	29日	後期・第3クォーター授業開始
9月	30日	前期終了
10月	1日	後期開始
12月	1日	第4クォーター授業開始
12月	27日	冬季休業開始
2月	13日	春季休業開始
3月	22日	学位記授与式
3月	31日	後期終了

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌
ひだまり Vol.16
令和7年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
地域連携委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊
http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman